

成人式祝辞

新成人の皆様、おめでとうございます。また、今日まで深い愛情を持ってお子さんを立派に育て上げられた保護者の皆様、ご家族の皆様にも重ねてお喜びを申し上げます。

みなさんの表情は、とても晴れやかで眩しくもあり、その洋々たる未来に大いにご期待申し上げますところではありますが、皆さんにとっては、大人の仲間入りをすると行った気負いよりは、久々の故郷での旧友との再会に心躍っていると言ったところが本当かもしれません。しかし、大きな節目でありますので、皆さんが過ごした 20 年の軌跡を、これまで皆さんを支えてくれたご両親や大勢の方々との出会いに感謝しつつ、思い返して噛みしめていただきたいと思います。

もちろん、折角ですので、「権利や自由、責任や義務」について、或は「自分が社会の一員として生きていくにはどうしたらよいか」、「そしてどんな大人になりたいか」など、考える機会としていただければ幸いです。

さて、今年の新成人の皆さんは、1998 年（平成 10 年）4 月 2 日から翌 1999 年 4 月 1 日までの間に生まれた方々であります。生まれ年の出来ごとですから当然記憶にないことでしょうが少々振り返ってみようと思います。平成 10 年は、長野オリンピック開催、FIFA ワールドカップ・フランス大会に日本代表が初出場を果たし、夏の甲子園では横浜高校が松坂大輔投手を擁して決勝戦でのノーヒットノーランと春夏連覇を達成するなど、スポーツ界の話題が豊富でした。昨年も、平昌オリンピックなど世界規模のスポーツ大会での日本人選手の活躍や大リーグでの大谷翔平選手の活躍があり、世代を超えて大いに盛り上がりました。

その他では、Windows98 の発売に Google の誕生とその後のインターネットの民間普及につながるキーワードが登場します。その後における高速情報通信技術の発展は目に見張るものがあります。また、2008 年のリーマンショックを乗り越えて、世界は様々な分野でグローバル化が進み、私たちの生活においても IT 技術が普及し、必要な情報を自在に活用できる時代となりました。

そんな便利な社会となりましたが、それでも私たちは未だ命の不思議や自然の営みをコントロールする術を持ちません。昨年の 9 月 6 日に発生した北海道胆振東部地震は、M6.7・震度 7 の大規模な地震でしたが、1995 年の阪神淡路から数えて、2004 年の新潟県中越、2011 年の東日本、2016 年の熊本が 2 度、そして 2018 年の北海道胆振東部で震度 7 を計測した巨大地震は 6 例となりました。これまでは、地震列島、火山列島に生きる者の心構えとして、欠かさず成人式の話題に取り上げて、様々な備えも用意してまいりましたが、よもや、私たちが被害者となるとは思ってもよらぬことでした。

ご承知だと思いますが、胆振東部地震では、厚真町で 36 名もの尊い命が失われ、避難者もピーク時は 1,118 人にも上りました。厚真町の誇る自然景観ですが、3,230ha もの山

腹崩壊と土砂に埋もれた農地は 155ha にも及び、私たちが慣れ親しんだ風景は一変しました。半壊以上の被災家屋は 530 戸、建設型仮設住宅やみなし仮設住宅等に身を寄せる帰宅困難者は 178 世帯 397 名にも達しており、公共的被害額は 2,000 億円近くと見積もられています。

日常生活を取り戻すことや心の傷をいやすことは、容易なことではありませんが、それでも、私たちは立ち止まってはいられません。今年は、町民の英知を結集し、まちの復旧・復興作業を加速させる復旧・復興元年としなければなりません。ここに集う新成人の皆様にも、是非お手伝いして頂きたいと思います。地域の担い手として、或いは、ボランティアとしてでも結構です。膨大な復旧作業が続きますが、皆さんと共に災い転じて福となす気概を持って、新たな地域づくり、新たな価値を創造してまいりたいと思います。

結びに、こうして復旧・復興元年に成人式を迎えられた皆さんと、是非共有したい言葉を紹介させていただきます。先ず『過去は変えられないが、自分と未来は変えられる』、そして『意志あるところに道は開ける。』の二つの言葉です。よく引用されますが、一つ目はカナダの精神科医エリック・バーンさんの名言であり、二つ目はリンカーン米国大統領が演説に使った言葉として知られています。

確かに私たちは甚大な損害を被りましたが、全てを失ったわけではありません。経験や情熱を持つ沢山の人材と生産基盤はまだ健在です。私たちは大規模な自然災害に対しては抗う術はなくとも、智慧と努力で沢山の課題を克服し、夢や希望を叶えてきました。決して風化させてはなりません、失ったものに囚われていては、未来は変えられません。未来は、自らの手によって創造するものであり、その為には、強い意志と周到な準備が大切だと考えています。

皆さんがこれから歩む道は、決して平坦な道ではないかもしれませんが。厚真町も同様ですが、ただ、支えてくれる人が必ずいます。多くの出会いと一つひとつの努力の積み重ねがいつか必ず大きな実を結ぶことになるかと信じています。

皆様の前途とご家族の皆様にご幸多かれとご祈念申し上げ、祝辞といたします。本日は、誠におめでとうございます。

平成 31 年 1 月 13 日

厚真町長 宮坂 尚市朗